



「北白川だより」 学校アンケート 臨時号

令和 8 年 9 月 1 0 日
京都市立北白川小学校
校 長 原田 玲子

令和 8 年度 学校教育目標 『学び合い 高め合い 夢に向かって進む 北白川の子』

平素は本校教育活動の推進のためにご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、保護者の皆様にはお忙しい中、7月の学校アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。学校アンケートは児童・保護者・教職員が共通の意識をもち、連携しながら教育活動を進めるために、それぞれの立場でこれまでの取組について見つめ直す手段の一つです。そして、この学校評価の結果から見えてくる課題について分析し、よりよい教育の在り方について考えていきたいと思っております。

なお、以下の考察では、A群「よくできている」とB群「だいたいできている」を合わせて『できている』、C群「あまりできていない」とD群「できていない」を合わせて『できていない』と大きく2つに分けて分析しています。

学習面

		A	B	C	D
児童	① よんだり、かいたり、けいさんしたりするちからがみに付いている。	54.8%	39.4%	3.9%	1.9%
	② せんせいやともだちのはなしをよくきいて、かんがえている。	53.5%	37.7%	7.1%	1.6%
	③ じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかんがえをいつたりかいたりしている。	41.9%	37.4%	17.1%	3.5%
	④ じゅぎょうちゅうともだちときょうりよくしてがくしゅうをしている。	53.9%	36.5%	6.5%	3.2%
	⑤ いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅうをしている。	56.5%	29.7%	9.4%	4.5%
	⑥ すすんでどくしよをしている。	54.2%	26.8%	12.6%	6.5%
	⑦ すすんでうんどうをしている。	56.5%	28.1%	11.9%	3.5%
保護者	① 我が子は、基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付いている。	54.1%	37.7%	6.9%	1.3%
	② 我が子は、人の話をしっかりと聞いて考えることができる。	36.8%	54.1%	8.7%	0.4%
	③ 我が子は、進んで自分の考えを伝えることができる。	36.8%	47.6%	15.6%	0.0%
	④ 我が子は、友達と協力して活動することができる。	54.1%	42.4%	3.5%	0.0%
	⑤ 我が子は、自分から家庭学習に取り組んでいる。	42.4%	36.8%	17.7%	3.0%
	⑥ 我が子は、進んで読書に取り組んでいる。	38.1%	35.1%	19.9%	6.9%
	⑦ 我が子は、進んで運動に取り組んでいる。	49.8%	32.9%	14.7%	2.6%
教職員	① 基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付くように取り組んでいる。	61.9%	38.1%	0.0%	0.0%
	② 友だちや先生の話しっかりと聞いて考える習慣が付くように取り組んでいる。	71.4%	23.8%	4.8%	0.0%
	③ 子ども達が進んで自分の考えを伝え合えるような授業づくりを心がけている。	47.6%	42.9%	4.8%	4.8%
	④ 子ども達が協力して学び合えるような授業づくりを心がけている。	61.9%	28.6%	4.8%	4.8%
	⑤ 家庭学習に進んで取り組めるように働きかけている。	52.4%	42.9%	4.8%	0.0%
	⑥ 読書に進んで取り組めるように働きかけている。	42.9%	52.4%	4.8%	0.0%
	⑦ 運動に進んで取り組めるように働きかけている。	31.8%	59.1%	9.1%	0.0%

※回答した教職員の中には、担任以外（学級を担当していない・児童と直接接する機会が少ない）もいることをお知らせいたします。

【④「じゅぎょうちゅうともだちときょうりよくしてがくしゅうをしている。」の項目より】

本項目は今年度新しく設けました。これは、テストの点数などで表れる「見える学力」を高めることはもちろん重要ですが、変化の激しいこれからの時代を生きていく子供たちには、他者と関わりながら課題を解決したり、多様な考えを受け入れたりする「協働する力」が欠かせないと考えからです。

今回新設した項目であるため、過年度との比較はできないものの、「できている」「どちらかといえばできている」と回答した児童の割合は約 90%となっています。この結果から、多くの児童が授業の中で友達と意見を交流したり、支え合いながら学習したりしていると実感していることがうかがえます。また、本校が大切にしてきた対話的な学びや協働的な学習の取組が、一定の成果として表れているとも考えられ、嬉しい結果となりました。

一方で、約 10%の児童は十分にできているとは感じていないことも踏まえ、一人一人が安心して考えを伝え合い、学びに参加できる授業づくりをさらに進めていく必要があるという反省点も見えました。今後も、知識や技能の習得だけでなく、友達と協力して学び合う力を育むことを大切にしながら、子供たちが主体的に学び、互いのよさを認め合える授業づくりを推進していきます。

【⑤「いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅうをしている。」の項目より】

本校では主体的に学習に取り組む力の育成を目指し、今年度、高学年の宿題の出し方を見直しました。これまでのように毎日課題を出すのではなく、1週間単位で課題を提示し、児童自身が学習計画を立てて見通しをもって取り組む方法を実施しました。その結果、毎日少しずつ計画的に進める児童や、習い事や家庭での予定と調整しながら集中して学習を進める児童など、それぞれの状況に応じて学習に取り組む姿が見られました。

一方で、アンケート結果を見ると、「できている」と「できていない」の割合は昨年度とほぼ同程度であり、数値面で大きな変化は見られませんでした。時間の使い方に自由度が生まれたことは大きな利点である反面、学習内容の定着や実施状況の確認など、今後の課題も見えてきました。

低学年・中学年では、これまでと同様に学習習慣の基礎を身に付けることを重視し、家庭学習に丁寧に取り組むことを大切にしています。このように、児童の発達段階に応じて学習の方法や内容を工夫しながら、6年間を見通した系統的な指導を進め、自ら学習に取り組む力を育てていきたいと考えています。ご家庭におかれましても、お気づきの点などございましたら、学校までお知らせください。

※保護者の皆様からいただきましたご意見についても教職員で共通理解を図るとともに、次回の「学校運営協議会理事会」でも話題にさせていただきます。

生活面		A	B	C	D
児童	① じぶんからすすんであいさつをしている。	56.1%	37.7%	4.5%	1.6%
	② いえやがっこうのルールをまもっている。	49.4%	43.2%	4.8%	2.6%
	③ みのまわりのじゅんぴやかたづけをじぶんでしている。	43.9%	39.7%	13.5%	2.9%
	④ せんせいやかぞくとふだんからはなしている。	65.8%	28.4%	3.5%	2.3%
	⑤ あいてのきもちをかんがえてはなしたりこうどうしたりしている	40.0%	50.3%	6.8%	2.9%
	⑥ にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。	41.3%	44.5%	10.3%	3.9%
	⑦ じぶんにはがんばっていることがある。	75.8%	20.6%	2.9%	0.6%
保護者	① 自分から進んで挨拶をするように伝えている。	47.6%	46.3%	6.1%	0.0%
	② 家や学校のルールを守るように伝えている。	62.8%	35.5%	1.3%	0.4%
	③ 身の回りの準備や片付けを自分でするように伝えている。	39.8%	49.4%	10.4%	0.4%
	④ 子どもの話をしっかり聴くようにしている。	44.6%	52.8%	2.6%	0.0%
	⑤ 相手の気持ちを考えて行動するように伝えている。	61.0%	36.8%	2.2%	0.0%
	⑥ 苦手なことにも自分から取り組むように伝えている。	30.7%	55.0%	12.1%	2.2%
	⑦ 子どもの頑張りを認め、伝えるようにしている。	68.4%	30.3%	1.3%	0.0%
教職員	① 自分から進んで挨拶ができるように働きかけている。	95.8%	4.2%	0.0%	0.0%
	② 家や学校のルールを守るように働きかけている。	79.2%	16.7%	4.2%	0.0%
	③ 身の回りの準備や片付けを自分でするように働きかけている。	75.0%	20.8%	4.2%	0.0%
	④ 子ども達に向き合い、しっかりと話を聴くようにしている。	75.0%	20.8%	4.2%	0.0%
	⑤ 相手の気持ちを考えて行動するように働きかけている。	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
	⑥ 子ども達が苦手なことにも前向きに取り組めるように働きかけている。	75.0%	20.8%	4.2%	0.0%
	⑦ 子どもの頑張りを認め、積極的に伝えるようにしている。	79.2%	20.8%	0.0%	0.0%
	⑧ 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努めている。	91.7%	8.3%	0.0%	0.0%

【⑤「あいてのきもちをかんがえてはなしたりこうどうしたりしている。」の項目より】

昨年度までの項目は、「あいてをきずつけないことばづかいではなしている。」でしたが、今年度は「あいてのきもちをかんがえてはなしたりこうどうしたりしている。」に変えています。言葉づかいだけでなく行動面も含めるとともに、「相手の気持ちを考える」という視点を加えることで、子どもたちに身に付けてほしい姿をより具体的に示しています。項目の範囲は広がりましたが、アンケート結果では昨年度と比較して「できている」と回答した児童が約3%増加しました。子どもたちの中に相手の立場や気持ちを意識しながら生活しようとする意識が見られるのは嬉しいことです。

学校は多くの人と関わりながら生活する場ですが、ときには自分の思いや考えを優先してしまうこともあります。しかし、自分を含めたみんなが気持ちよく学校生活を送るためには、相手の気持ちを想像しながら行動することが大切です。また、「みんながやっているから」「面白そうだから」と周りの雰囲気流されるのではなく、自分はどうするべきかを考え、正しい判断ができる力も求められます。今後も、相手を思いやる心と主体的に行動する力を育みながら、よりよい人間関係づくりにつながる指導を進めていきたいと考えています。

【⑥「にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。」の項目より】

今年度の学校教育の重点の一つに「失敗を恐れずにチャレンジする子の育成」を掲げています。失敗を恐れずにチャレンジするためには、「間違えても大丈夫」「やってみよう」と思える温かい学級の雰囲気が欠かせません。今回のアンケートでは、前回より4.5%の増加が見られ、子どもたちが意識して取り組めていることや、各学級で安心して挑戦できる環境づくりが進んでいることがうかがえます。

一方で「できていない」と感じている児童も15%近くおり、決して低い割合ではありません。まずは一人一人のよさやがんばりを認め、成功体験を積み重ねることで自信につなげ、その自信を新たな挑戦への力にしていきたいと考えています。また、「できない」「困っている」と素直に伝えられる関係を築いていきたいと思っています。

○今回のアンケートでは、保護者の皆さんに「社会性（集団の中で協力しながら生活する力）を育てるために、ご家庭で心がけていること。」をご記入いただきました。数多くの記述をありがとうございました。箇条書きにまとめた形になりますが、紹介させていただきます。

・相手の気持ちや立場を考える

「相手ならどう思うか」「相手の立場に立って考える」

・自分がされて嫌なことは人にしない

思いやりや人権意識の基礎として伝えている。

・自分の気持ちや考えを適切に伝える

自己主張だけでなく、自分の思いを言葉にすることを大切にしている。

・挨拶・返事を大切にする

家庭や地域でも積極的な挨拶を促している。

・感謝や謝罪を言葉にする

「ありがとう」「ごめんなさい」を大切にしている。

・言葉遣いや相手への伝え方を意識する

丁寧な言葉遣い、人を傷つけない表現を心掛けている。

・家庭での対話や振り返りを大切にする

学校での出来事を聞き、一緒に考えたり話し合ったりしている。

・親が手本となる行動を示す

挨拶や感謝、他者への接し方を保護者自身が実践している。

・多様な考えや価値観を認める

人によって考え方や感じ方が異なることを伝えている。

・家事や家庭内の役割を担う

お手伝いや当番を通して責任感や協力する力を育てている。

・家族や兄弟で協力し合う

譲り合い、助け合い、話し合いを大切にしている。

・困っている人を助ける・助けを求める

支え合うことの大切さを伝えている。

・ルールや約束、時間を守る

家庭や学校のルールを守る理由も含めて話している。

・様々な人との交流や集団活動を経験する

異年齢交流、地域活動、チームスポーツなど。

・子どもの良さを認め、自信を育てる

頑張りを認め、安心して成長できる環境づくりを心掛けている。

記述からは、「相手の気持ちを考えること」「挨拶や感謝を伝えること」「家庭内での対話を大切にすること」が特に多く見られました。また、家事分担や家族での協力、困っている人を助ける経験を通して、社会性や協働性を育もうとする姿勢もうかがえました。さらに、多様な価値観に触れる機会を設けたり、子どもの良さを認めて自信を育んだりする取組も見られました。いろいろなご意見を読ませていただく中で、「〇〇が大切」と伝えるだけでなく、なぜそれが大切なのかを子どもと話し合ったり、自ら気付けるように働きかけたりされていることが印象的でした。また、トラブルの被害者にならないようにするだけでなく、自分自身が相手を傷つける側になっていないかという視点で声をかけてくださっているご家庭も多く見られました。今後も、学校と家庭が同じ方向を向きながら、子どもの社会性や思いやりの心を育てていきたいと考えています。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。